

## 令和4年度第2回滝沢市総合教育会議 議事録

(令和4年11月28日(月)開催 13時30分～14時30分)

### ○(司会)企画政策課総括主査

ただ今から、令和4年度第2回滝沢市総合教育会議を開催します。はじめに、武田市長より挨拶を申し上げます。

### ○(挨拶)市長

皆様、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

先般行われました滝沢市長選挙により、滝沢市長となりました武田でございます。

教育委員会の皆様には、日頃から、本市における学校教育、生涯学習、文化・スポーツの推進など幅広い分野に対し、御尽力を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げます。

滝沢の教育行政を教育長とともに、しっかりと支えてまいりたいと考えておりますので、教育委員の皆様のご支援、そして本日は忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

私は、子どもの笑顔をしっかりと育みながら、そして、さまざまな面で子育てに悩んでいる方も多くいらっしゃると思います。そういう方々をどのように支えていけばよいのか、相談体制をどのように作っていくのか、若い世代にしっかりとした教育環境を整えていくためどのように進めていけばよいのかなど、今後ともご指導いただければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

### ○(司会)企画政策課総括主査

続きまして、熊谷教育長より挨拶を頂戴します。

### ○(挨拶)教育長

令和4年度第2回総合教育会議を開催いただき、教育委員会を代表して御礼申し上げます。

この会議は、教育委員会制度改革の中で、市長が主宰し、教育大綱の制定や教育の条件整備の予算等について、また、教育現場におけるいじめの重大事案について、市長、教育委員からご指導・ご意見をいただく機会となっています。まさに教育における総合的な会議の場となっています。

教育委員会では、昨年度から2年間をかけて滝沢市の学校教育の在り方検討委員会というものを開催し20名の委員から様々な意見を伺っています。滝沢中央小学校の開校により過大規模校の解消が図られましたが、過小規模校はこのままの規模で良いのかということについて文部科学省等からも十分な検討が必要とのことで、現在過小規模校について検討いただいているところであります。本市の児童生徒が将来に向けてよりよい環境で学ぶことができるよう検討しており、今年度末に報告書をいただくことになっている。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症への対応として、県内では本市のみとなっているスクールサポートスタッフを全校に配置し、学校の消毒、検温、教職員の印刷物の印

刷などに従事していただいております。教職員の働き方改革への取組にもつながっており、学校からも感謝されている。また、学校トイレの洋式化にも取り組んでおり、児童生徒用トイレの洋式化率は100%となっており、学校現場の環境改善予算の確保に感謝しているところでもあります。今朝も市長からは、子どもたちの安全安心にかかわる学校設備に関する改修等について一番にお話をいただき、そういったことが子どもたちの学力向上につながるというお話をいただきましたこと心から感謝を申し上げますとともに、意を強くしたところでもあります。

本日の総合教育会議におきましては、教育委員会としては、本年度の急激な物価高騰に伴い、学校給食の食材費に大きな影響を受けておりますことから、現在学校給食費について検討している事項についてご説明させていただき、ご協議いただければと考えております。

結びに、市長と教育委員が、総合教育会議の場で、教育施策の方向性を連携・共有することで、滝沢市の教育をより良い形に進めていきたいと考えておりますので、本日は、どうぞよろしく願いいたします。

#### ○（司会）企画政策課総括主査

ありがとうございました。ここで、次第にはありませんが、市長が変わったこともありますので、教育委員の皆様からそれぞれ自己紹介をいただければと存じます。

#### ○（自己紹介）教育委員

（教育委員それぞれ自己紹介）

#### ○（司会）企画政策課総括主査

ありがとうございました。続きまして次第の「3議題」に移りたいと思います。ここからは、滝沢市総合教育会議運営要綱第2条の規定により、武田市長に議長をお願いします。

#### ○（議長）市長

それでは、皆様のお手元にあります次第に従って進めていきます。議題の（1）「滝沢市学生応援プロジェクトについて」説明をお願いします。

#### ○（説明）企画政策課長

私の方から「滝沢市学生応援プロジェクトについて」説明します。

滝沢市学生応援プロジェクトとして、まず、雇用創出事業として、滝沢市学生アルバイト事業を行っております。当市では、大学が立地している特徴を生かして、学生とのつながりづくりや市への愛着づくりに継続して取り組んでいます。この取組の一つとして、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている学生に対して、生活及び学業支援の一環として市役所における学生アルバイト事業を令和2年度から実施しております。

学生アルバイト事業については、令和4年度で3年目となり、延べ84人の学生がこの事業に参加し、様々な現場で仕事に取り組んでいます。現場に学生を配置することで、継続したつながりが生まれているほか、地域や人とのつながりが広がる機会ともなっています。

す。今後もこのようなつながりづくりを進め、市についてさらに理解が深まり、愛着を築けるよう取組を展開していきます。

取組のきっかけといたしましては、コロナ禍にあって、アルバイト収入が少なくなったという学生の声を受けて、そういった学生の救済という意味を込めてスタートしたもので、財源としては、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、現在実施しております。令和4年度においては、現在29人を雇用し、各課等に配置して様々な事務を行っている。

学校現場の学生アルバイトとしましては、学校事務の補助や学校施設の消毒作業など、幅広い業務に取り組んでいるところです。これまでの任用実績としては、令和2年度は、鶉飼小学校4名、一本木小学校1名、令和3年度は、滝沢小学校1名、鶉飼小学校1名、滝沢第二中学校1名、令和4年度は鶉飼小学校2名、滝沢第二中学校2名となっています。

体験した学生からは、「教員、生徒のサポートをするという自分にしかない立ち位置で仕事が出来てとても新鮮だった。」、「大量にプリントを印刷したり、白線を引いたり、他にも様々な業務から学ぶことができた。」、「夏休み中に1か月も貴重な体験をさせていただき本当に嬉しく思った。時には児童と触れ合ったり、先生方と他愛のない話や相談をしたり、家族のように接してくれて暖かいコミュニティだと心から感じた。」「仕事も毎回やりがいを感じ、人のためにお仕事をする喜びを実感した。教員を目指していたため、このような経験は自分にとって大きな出来事だった。お金以上の価値のある素晴らしい経験ができた。」などといった声が寄せられています。

現場の先生からも、さまざまな部分で、補助していただき、大変助かっている、特にコロナ禍における検温・消毒事務補助などで大きく貢献してもらっている等の話をいただいている。

担当課としては、双方から好意的な意見をもらっておりますことも含めて、成果を上げている事業であると捉えております。説明は以上となります。

#### ○（議長）市長

それでは、滝沢市学生応援プロジェクトについてご意見やご質問があれば承ります。

#### ○（意見）教育委員

コロナ禍において、先が見えない状況もあった中、このような学生の自信や経験につながり、滝沢に親しむ機会の創出にもつながる支援を継続して実施していることに心から感謝する。財源が新型コロナウイルス対策の交付金ということで、来年度以降どのようなか心配な部分もあるが、今後も発展的に続けていただければと思う。

#### ○（質問）教育委員

任用した学生が所属している大学は、岩手県立大学と盛岡大学のみであるのか。

#### ○（回答）企画政策課長

そのほか岩手大学の学生も任用している。また、令和2年度については、当時多くの大学がオンライン授業での対応であったことから、仙台・関東圏の大学に通っている学生の

中でも実家からオンライン受講している方もおり、そういった学生を任用していた事例もあった。

○（質問）教育委員

配置された小中学校以外からの配置の要求等はなかったのか。

○（回答）企画政策課長

配置方法については、最初に各学校等に配置希望の調査を行い、希望があった学校を提示し、学生の勤務希望校とのマッチングを行った。全ての学校から希望があったわけではなく、また、通勤距離との兼ね合いで、配置希望があったが学生の応募がなかった学校もあった。

○（質問）教育委員

この事業は次年度以降も継続する予定なのか。

○（回答）企画政策課長

次年度以降につきましては、国の交付金の見込みは現状立っていない。ただ、この3年間行った成果を踏まえて、交付金がなくなったとしても市の単独財源で継続したいと考えている。ただし、これまでの任用規模は難しいと考えており、人数を絞った形で継続したいと担当課としては考えている。

○（意見）教育長

教材備品の清掃・整理などを、夏休み中などのまとまった時間を確保しながら実施できたとのことで、教材準備だけでも多忙な教員から感謝されていた様子だった。

○（議長）市長

ほかに意見等ないようですので、この議題を閉じたいと思います。

続きまして、「物価高騰に伴う学校給食食材費の調達について」教育委員会からの説明をお願いします。

○（説明）学校給食センター所長

私から「物価高騰に伴う学校給食食材費の調達について」説明いたします。

まず、学校給食費の概要についてであります。学校給食の運営に関する経費については、学校給食法において負担区分が定められており、施設設備費、人件費、修繕費は設置者である市が公費負担することとなっております。また、光熱水費については、保護者負担とされているものの、国の指針により設置者が「負担することが望ましい」とされておりますことから、本市では公費負担しており、食材費のみ保護者に負担していただいている状況となっております。

また、市の滝沢市学校給食実施規則及び滝沢市学校給食費に関する規則により、小学校、中学校それぞれの給食回数、1食当たりの給食費等を定めております。

学校給食費の保護者に対する支援につきましては、学校教育法の規定に基づき、経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して援助を実施しています。実際には、学用品を購入する際に必要な経費や修学旅行費、学校給食費等を予算の範囲内で支給しています。

続きまして、物価高騰による学校給食食材費の算定についてであります。今回市議会12月会議へ値上がり相当額分の補正予算を要求しておりますが、その内容も含めてご説明いたします。

まず、現状の1食当りの給食費の内訳として、米飯及びパンの主食と、牛乳、そして、主菜、副菜、デザートなどの一般食材の3つに分けられます。令和3年度と令和4年度の1食当りの給食費の内訳は資料に記載のとおりであります。令和3年度と比べると令和4年度は、小・中学校ともに、1食当たり主食が0.96円、牛乳が1.33円値上がりしており、この値上がり分について、一般食材購入費を減らすという対応によって全体の給食費を値上げしないよう対応しているところであります。

また、物価高騰の指標といたしまして、令和4年度と令和3年度の同一食材の同時単価を139品目比較したところ、平均価格上昇率は、6.2%でありました。

これら数値をもとに、令和4年度食材費全体予算から物価高騰影響額を算定したところ、資料に記載のとおり、その年間影響額を15,843,112円と計算したところであります。

補正予算計上額としては、令和4年度の12月から3月までの4か月分の必要額を算定すると、資料記載のとおり5,281,036円となり、その経費を盛り込んだ補正予算について市議会12月会議で審議いただくこととしております。

次に、他市町の物価高騰への対応状況であります。今年度の物価高騰への対応も、自治体によって、公費負担や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金による対応、対応しない自治体など、対応状況が分かれています。本市では、公費負担による対応としたいと考えております。

また、来年度の給食費の改定予定についてであります。他自治体では令和2年度に改定を行っている自治体も多く、令和5年度の改定についてはその改定から間もないとのことで、改定予定なしとしている自治体もあり、現在検討中としている自治体と予定なしとしている自治体がそれぞれほぼ半数ずつという状況となっております。本市においては、前回の改定が平成27年度でありその間の物価上昇の影響も大きいことから現在令和5年度の改定について検討を行っているという状況にあります。

なお、他自治体との比較に関して、八幡平市の学校給食は、完全給食ではなく、ご飯持参の取扱いとなっておりますことにご留意ください。

以上で説明を終わります。

#### ○（議長）市長

それでは、説明が終わりましたので、ご意見またはご質問を承りたいと思います。

#### ○（質問）教育委員

滝沢市では令和5年度の改定について検討中とのことだが、担当部署ではどのように考

えているのか。

#### ○（回答）学校給食センター所長

物価高騰も踏まえ、保護者負担として給食費は上げざるを得ないと考えております。ただ、実施までの期間が短いということや、前回改定からの物価高騰相当額も大きな金額となっていることから、そういった点も踏まえて検討を進めたいと考えています。

#### ○（質問）教育委員

滝沢では平成27年度の前回の改定からある程度の期間も経ており、通常の改定としても必要な時期にあるとは思いますが、家計に与える影響はどうしても大きなものになる。しかし、子どもたちの必要な栄養を確保していかなければならない。保護者のご理解をいただけるかといった不安はあるが、そういった点をどのように進めていこうとしているのか。

#### ○（回答）学校給食センター所長

保護者や市議会に対しても説明する機会を設けて理解をいただきたいと考えているが、来年の4月から改定となった場合には、実施までの期間が短いことから心配な部分もある。

#### ○（意見）教育委員

滝沢では平成27年度の改定から値上げせずに運営してきたことも踏まえて保護者に丁寧な説明をしながら、給食費は改定していく必要があると感じている。

#### ○（質問）教育委員

給食費の改定については、現時点までの物価高騰部分のみに対する改定なのか、今後の高騰見込みも含めた改定とする予定なのか。今後も物価の高騰が続いた場合、今回改定すると次またすぐに改定するのは難しくなる部分もあると思うが。

#### ○（回答）学校給食センター所長

今検討しているところは、平成27年度と令和4年度を比べた場合の主食と牛乳の高騰部分を解消するというところで検討しており、将来の物価高騰部分は見込んでいない。平成27年当時から、大体主食が10円程度、牛乳が11円程度値上がりしている状況であり、現在の給食費からすると10%程度の負担増となる。これまで本市では3年から5年程度で改定してきた経緯があったが、それほどの上昇率になったことはない。

#### ○（回答）教育長

前回の市議会においても、物価高騰に係る学校給食費への影響に関する議論があり、物価高騰しているものの今年度は現行の学校給食費の中で運営していくと回答している。どのような調整をしているかという点、デザート提供回数の減や内容の変更によりこれまで対応していたが、子どもたちに楽しい給食を提供したいという学校給食センターの思いもあり、今回12月補正で12月から3月までの4か月の物価高騰相当分に対応する経費

について公費負担としたいと考えている。来年4月からはどうするかという部分については、PTAや民生委員、学校長など約20人程度の委員で構成している学校給食センター運営委員会にまずは諮って、いろいろな意見を聞きながら検討を進めていきたいと考えている。

#### ○（質問）市長

八幡平市ではご飯を持参しているとのことだが、その評判などは聞いているのか。例えば本市でもご飯持参ということにすれば、給食費の値下げになるとともに、朝ご飯をしつかりと食べる習慣につながったり、学校側でも家庭の様子などの把握も可能といった利点もあるのではないかと。ただ、学校側でも忘れてきた場合の対応など検討しなければならないとは思いますが、そういった考えなどはあるのか。

#### ○（回答）学校給食センター所長

八幡平市からの状況は確認していないが、給食費負担が減ったとしても、家庭の負担が増える部分もあるので、運営委員会の中で意見をいただくということになると考えている。

#### ○（回答）教育長

以前ご飯持参の学校に勤務していたことがあったが、やはり大変だったのは、忘れてきた時の対応であった。子どもたちが分け合ったり、保護者が届けたりなどいろいろな課題があった。県内では、完全給食化の方向にある現状において、本市で「明日からご飯持参」となった場合には様々な反対の意見が出されることが想定される。なお、県内において共同調理方式の自治体で、ご飯持参としているのは、八幡平市のみようです。

#### ○（質問）市長

物価が上がっているので値上げしますということではなく、「負担増は大変」や「少しでも支出を減らしたい」といった意見などが出ることも想定されるので、検討の場面では、ご飯持参方式についても提案し、意見交換していただくようお願いしたいと考えている。

#### ○（回答）教育長

12月開催予定の学校給食センター運営委員会で、ご飯持参という考え方についても委員の皆さんから意見を聞いてみます。

#### ○（意見）教育委員

ご飯持参となった場合は、例えば共働きや朝早く仕事に向かう家庭などは負担増を感じるなど、それぞれの家庭の状況によっていろいろな意見がでるのではと思います。

#### ○（議長）市長

それでは、ほかに意見等ないようですので、この議題については終了したいと思います。本日の議題は以上となります。皆さんありがとうございました。

○（司会）企画政策課総括主査

議題につきましては、終了となりますが、その他ということで何かございますか。

（なしの声）

無いようですので、令和4年度第2回滝沢市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。